
特集 2 きず・きずあと（創傷）治療：最近の進歩

【巻頭言】

中西 秀 樹（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部感覚運動系病態医学講座形成外科学分野）
島田 久 夫（徳島県医師会生涯教育委員会）

最近外科領域の急性期や慢性期の創傷の治療法が変わり、医療現場が多少混乱しつつある。創部を強い消毒液や抗生物質軟膏をガーゼに塗布する治療法から、消毒せずに水で洗浄してガーゼに抗生物質を含有しない軟膏を塗布する方法や種々の創傷被覆剤を貼付するなど治療法の選択が増している。創部を乾燥させる治療法から湿潤環境に保つ治療など創傷治癒の概念も変わりつつある。ここでは創傷治療の種々の治療法の利点と欠点を述べる

とともに高齢化社会となり、食の欧米化により急速増加している褥瘡や糖尿病の足病変について最近の知見を述べる。また加齢や紫外線障害により生じた色素沈着やしわなどを改善するアンチエイジング美容医療やあざや外傷などの顔面の瘢痕を目立たなくするリハビリメイクなど新しい医療についても概説する。本特集がQOLの改善につながる新しい治療法に役立つことを期待する。